



青少年交換の歴史

- 最初の交換は1927年に始まり、ヨーロッパの学生だけが参加していた
- 1939年に、カリフォルニアとラテンアメリカの国々の間で交換が開始される
- 1958年、活動はアメリカ東部に広がる
- 青少年交換は、1972年にRIの公式プログラムとなる



2010-11年度には次の皆さんを受け入れています(敬称略)。

Victoria Marie BAUER (萩、アメリカ・東ネブラスカ・西アイオワ)

Stratton Cording GAINES (山口、アメリカ・テキサス)

Brett Matthew Hyska (広島西、カナダ・ブリティッシュコロンビア)

Dajana BOZEK (広島東、ドイツ)

Ylva Maria FORSBERG (東広島、スウェーデン)



長期交換

長期交換は1学年度にわたります。学生は2、3家族のホストファミリーのもとに滞在し、留学国の学校に通うことが義務づけられています。



また、2009-10年度に2710地区から派遣した学生(ローテックス)は次の皆さんです(敬称略)

松本直樹 (下関、アメリカ・ウエストバージニア州)

木村美裕 (山口、カナダ・ブリティッシュコロンビア州)

平谷光 (徳山東、アメリカ・ミシガン州)

川上玲奈 (広島西、アメリカ・ミネソタ州)

榎野文花 (広島、アメリカ・カリフォルニア州)

青少年交換プログラム(長期交換)を通じ、帰国学生が留学中に得たこと



青少年交換プログラムから帰国した学生の感想を帰国報告書から抜粋しました。以下の通りです。

- 新しい事にチャレンジするという積極性と他国とのコミュニケーションの大切さを学んだ
 - 自分自身を磨く事が出来た
 - 友人が増えた
 - 当たり前だと思っていた日常に感謝出来るようになった
 - 自分自身が「日本人であるという事」を改めて自覚するきっかけになり、日本の事をもっと学び、日本人らしく日本の文化を大切にしていきたいと思った
 - 人前に出るのが、恥ずかしくないと考えるようになった
 - 両親の有難さがわかった
 - 留学生活は、私の人生の大きな第一歩となり、この経験は将来の自分に必ず役に立つと思う、これからも是非ロータリーという名に関わっていきたい
- 青少年交換プログラムに対してのご支援、ご協力をお願いします。



2011年 2月24日(木)

第 30号

本日のプログラム	夜間例会
次回例会	3月3日(木) 12:30~ 三次商工会議所
次回プログラム予告	ロータリー情報委員会

例会記録・・・2月17日

- 点 鐘・・・中川筆之 会長
- ソング・・・「君が代」「それでこそロータリー」

会長挨拶 ■中川 筆之 会長



失礼します。一週間のご無沙汰です。
 昨日、当クラブと友好関係にある宮崎県小林市にあります小林ロータリークラブへmake upに小田副会長と共に行ってまいりました。あくまでもプライベートでの訪問です。例会で少し時間を頂きましたので3つほどお礼なり御願ひ也をお話させて頂きました。
 まず、第一は昨年の10月10日に開催いたしました当地区大会にお出で頂きましたお礼を申し上げます。二つめは、来月3月12日に開催されます小林クラブさんの50周年式典が当2710地区のPETSと重なりまして出席ができません。代理の会員に祝辞を託します非礼のお詫び申し上げます。三つめは、当三次クラブの50周年を来る4月16日(土)に実施いたしますのでご都合のつかれます方には是非おいで下さいませよう御願ひ申し上げます。最後に小林市で3日前に降り注ぎました新燃岳の爆発的な噴火による噴石を貰って来ましたので見てください。本日は以上です。

幹事報告 ■菅原 暢之 幹事

- 2月24日夜間例会出欠の回覧
- ローター手帳注文の回覧
- 丸田会員R財団より、ベネファクター
- 松尾会員年男祝い
- 韓国第3690地区大会4月22日・23日
が、4月16日・17日に変更により三次RC
50周年と日程が重複しました。



出席報告 ■沖田 憲司 会員

2月3日の出席報告					本日（2月17日）の出席状況			
会員数	出席者	Make-up	出席免除者	出席率	会員数	出席者	出席免除者	欠席
44	29	4	5	81.82%	44	29	5	10

Make-up 新会員（三次中央RC）・小田(大)（R財団夢計画委員会）・中川会員（地区研修セミナー）
伊藤会員（全国ローターアクト研究会）

SAA報告 ■ 属 吉行 SAA

スマイル1,000円

木村 易三	入会月
-------	-----

プログラム

会員卓話



**■ 灘岡直隆 会員
青少年交換プログラムについて**

青少年交換プログラムに対する思い
青少年交換プログラムの主体は各ロータリークラブ間の奉仕活動であり、当地区においては年度によって異なるものの例年約5名程度の長期交換を行なっています。地区は各国ロータリークラブ間の交換等が円滑に進むよう微力ではありますが、お手伝いをさせて頂いています。そしてこのプログラムは多くの皆さまの協力・支援により成り立っています。

するようになることではないかと考えています。

青少年交換の歴史は、1927年にフランスのニースRCで、29年にはデンマークのコペンハーゲンRCで交換が始まり、その輪が広がったようです。1972年にはプログラムがRIの公式プログラムとなり、近年では全世界の86%の地区でこのプログラムに参加しています。83カ国、166地区で8000名を超える高校生が交換されています。

2006年、当時のRI会長は「世界中の高校生がロータリー青少年交換学生であれば世界に争いはなくなる」との名言を述べています。そのくらい素晴らしい取り組みだといえます。派遣・受け入れ学生

第2710地区では、2011-12年度に次の皆さんを派遣予定学生としています（2011年7～8月出国予定、敬称略）。

- 岡田萌果 1年（下関北RC）
- 藤井千夏 1年（山口RC=インターアクト在籍）
- 坂本実優 1年（広島城南RC）
- 中澤裕基 2年（呉東RC）
- 大澤春花 1年（庄原RC）

青少年交換の目標

- 青少年交換は、
- ・ 青少年に異文化に触れる機会を与える
- ・ 参加者に、世界に対するより広い視野を与え、るとともに、自分自身をさらに深く理解するのを助ける
- ・ 青少年の指導力とコミュニケーションの技能を身に付けさせる
- ・ 国際理解と世界平和を推進する

このプログラムの目的を私なりに解釈致しますと、交換留学生達とそこに通う学校の学生達・ロータリークラブ関係者・ホストファミリー・学校関係者・地域の人たちなど多くの方が、異なるお互いの国の歴史・伝統・文化・生活習慣等を学び経験し、そして交流を通じ、相互に理解・尊重し合い、人と人との心のふれあい・つながりを大事にすること、そして交換留学終了後（母国へ帰国後）も平和を愛し、様々な形で国・地域社会等で各々異なる立場で奉仕

青少年交換の概要

- ・ 毎年、世界60カ国以上で8,000人を超える学生が参加
- ・ 全ロータリー地区の86%が青少年交換プログラムに参加
- ・ ローター青少年交換は妥当な費用で実施できる交換プログラム
- ・ ローター青少年交換は、ロータリアンの子供とロータリアン以外の子供を対象